

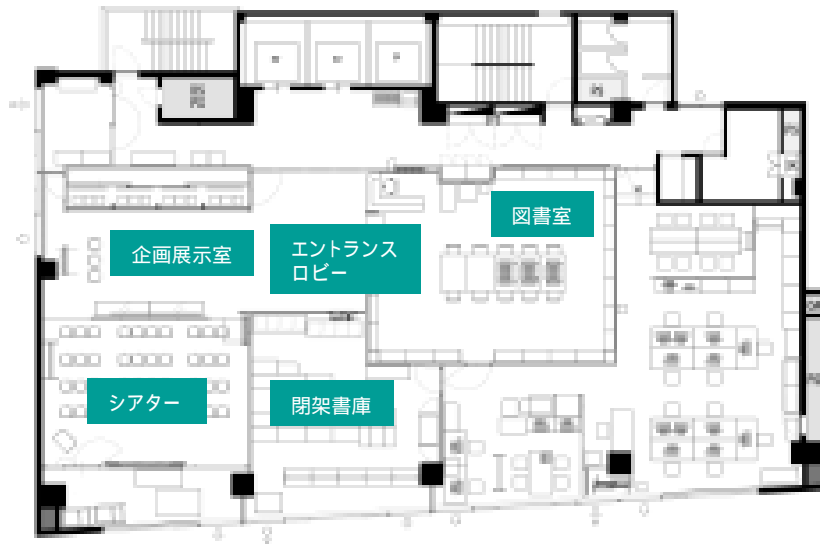
# 令和5年度 しょうけい館運営事業 実施状況報告

(令和5年4月から令和6年1月末日まで)



0. 目 次	01
1. 施設移転 実施業務	
(1) 2Fエリア紹介	02
(2) 3Fエリア紹介	03～06
2. しょうけい館利用状況	
(1) しょうけい館 来館者数	07
(2) 団体利用 集計 (団体種類別)	08
(3) 団体利用 集計 (利用団体毎の人数クロス集計)	09
3. 展 示	
(1) 企画展の実施	10～12
(2) 3館連携企画	13～15
(3) 上映会の開催	16
(4) 貸出キット	17
4. 資料収集・保存	
(1) 新規証言映像の収録	18
(2) 実物資料の収集	18
(3) 図書資料の収集	18
5. 普及・広報	
(1) ホームページ・情報媒体利用	19
(2) メディア・掲載記事	20～23
6. 語り部活動事業	24～25
7. 友の会	26
8. 利用者アンケート	27～30

(1) 2Fエリア紹介



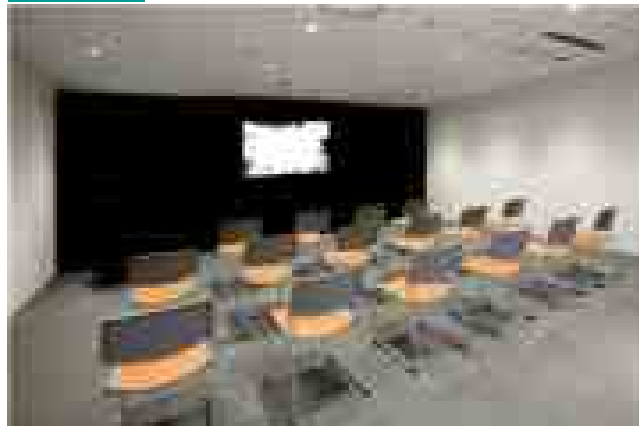
エントランスロビー



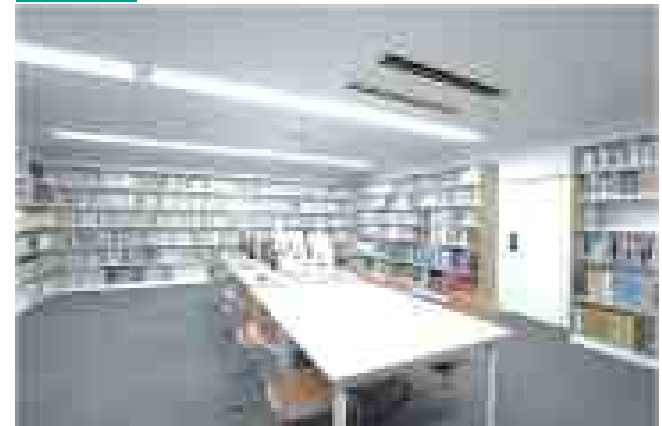
企画展示室



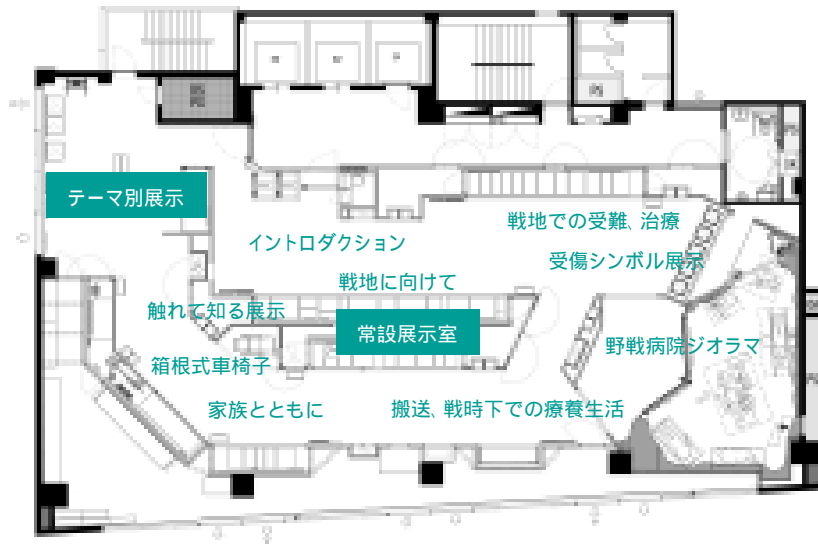
シアター



図書室



(2) 3Fエリア紹介



3F常設展示室入口より



常設展示室

イントロダクション



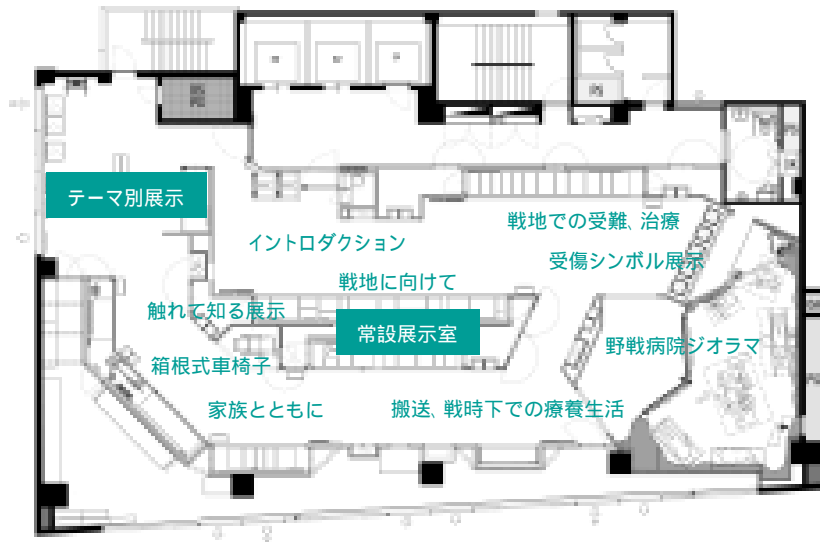
戦地に向けて



戦地での受難、治療



(2) 3Fエリア紹介



野戦病院ジオラマ



戦地での受難、治療



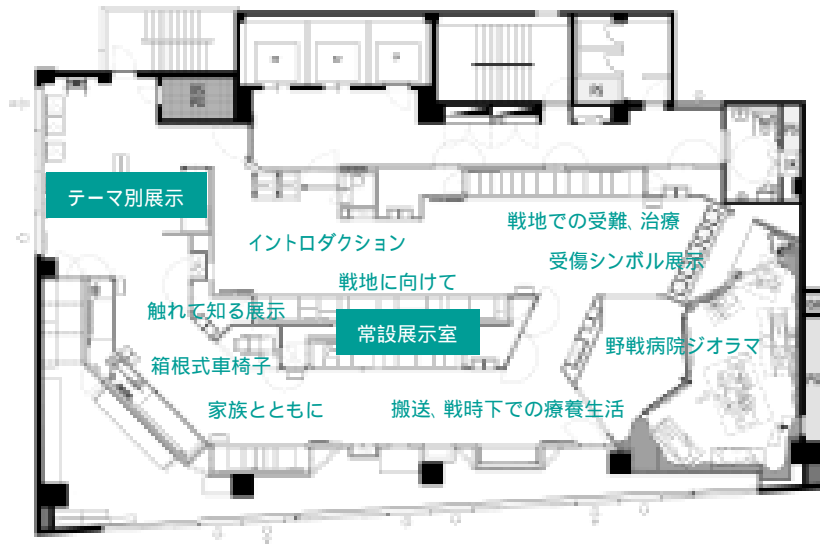
受傷シンボル展示



服装展示(従軍看護婦)



(2) 3Fエリア紹介



野戦病院ジオラマ出口より



搬送、戦時下での療養生活



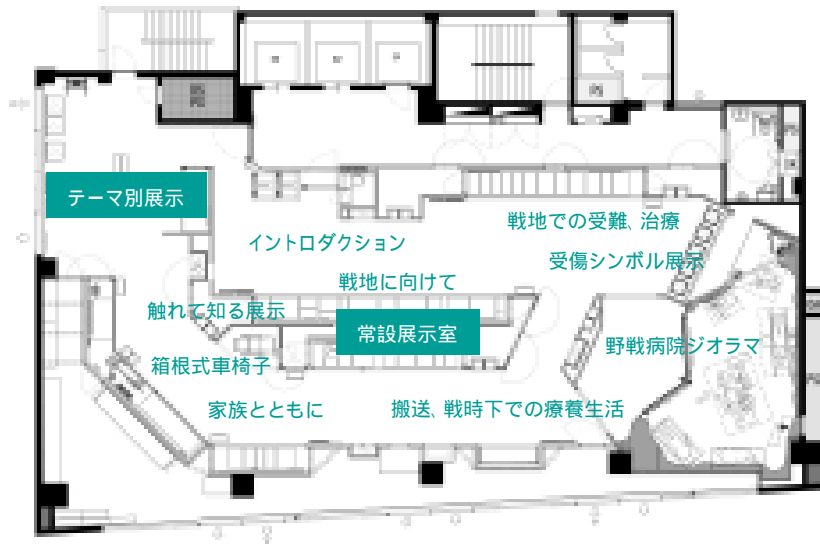
搬送、戦時下での療養生活



家族とともに



(2) 3Fエリア紹介



箱根式車椅子展示より



家族とともに



家族とともに



触れて知る展示



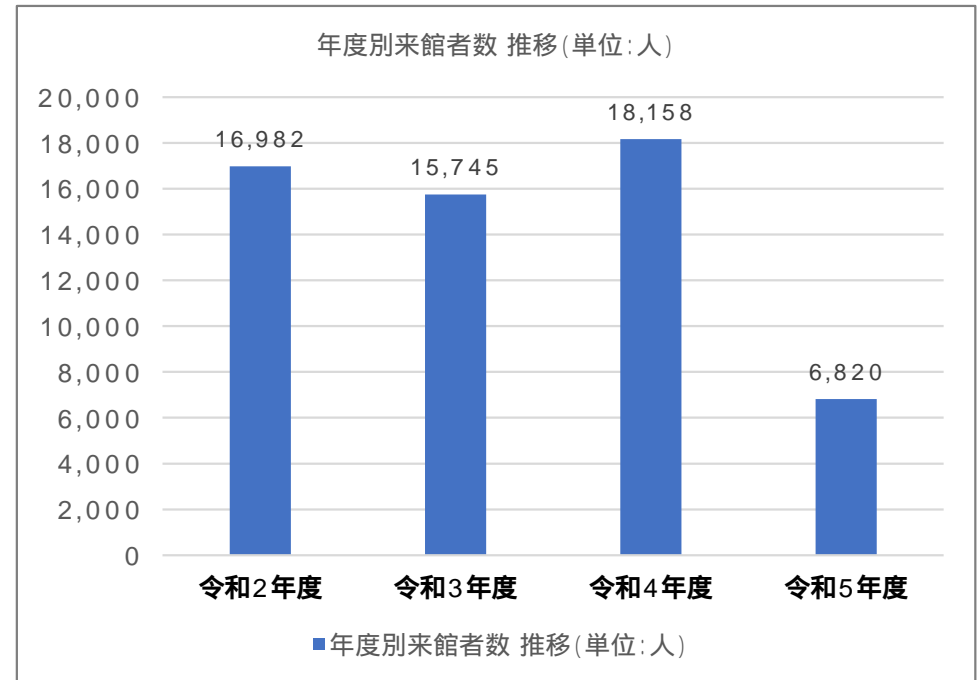
テーマ別展示





(1) しょうけい館 来館者数 (旧施設では館が設置している「自動カウンター機」により計測 / 新施設では「入場券発券機」により計測)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
4月	休館( 1) 0	1,134	1,520	1,098
5月	休館( 1) 0	休館( 2) 0	1,361	1,104
6月	1,357	893	1,492	1,054
7月	1,916	1,334	1,753	1,096
8月	2,646	2,320	2,974	休館( 3) 0
9月	2,194	1,004	1,359	休館( 3) 0
10月	1,506	1,529	1,327	192
11月	1,569	1,347	1,315	728
12月	1,177	1,262	1,339	744
1月	1,443	1,360	1,205	824
2月	1,610	1,693	1,249	
3月	1,564	1,869	1,264	
合計	16,982	15,745	18,158	6,820



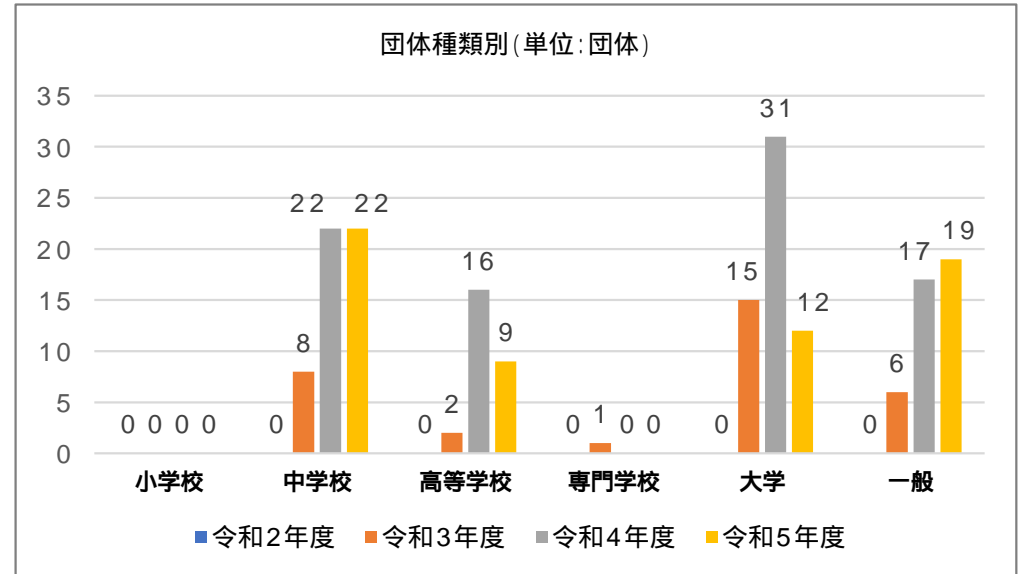
- 1 令和2年2月28日～令和2年5月31日 コロナ対応による休館
- 2 令和3年4月25日～令和3年5月31日 コロナ対応による休館
- 3 令和5年7月31日～令和5年10月24日 移転準備による休館





(2) 団体利用集計(団体種類別)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	0	0	0	0
中学校	0	8	22	22
高等学校	0	2	16	9
専門学校	0	1	0	0
大学	0	15	31	12
一般	0	6	17	19
合計	0 1	32 2	86	62 3



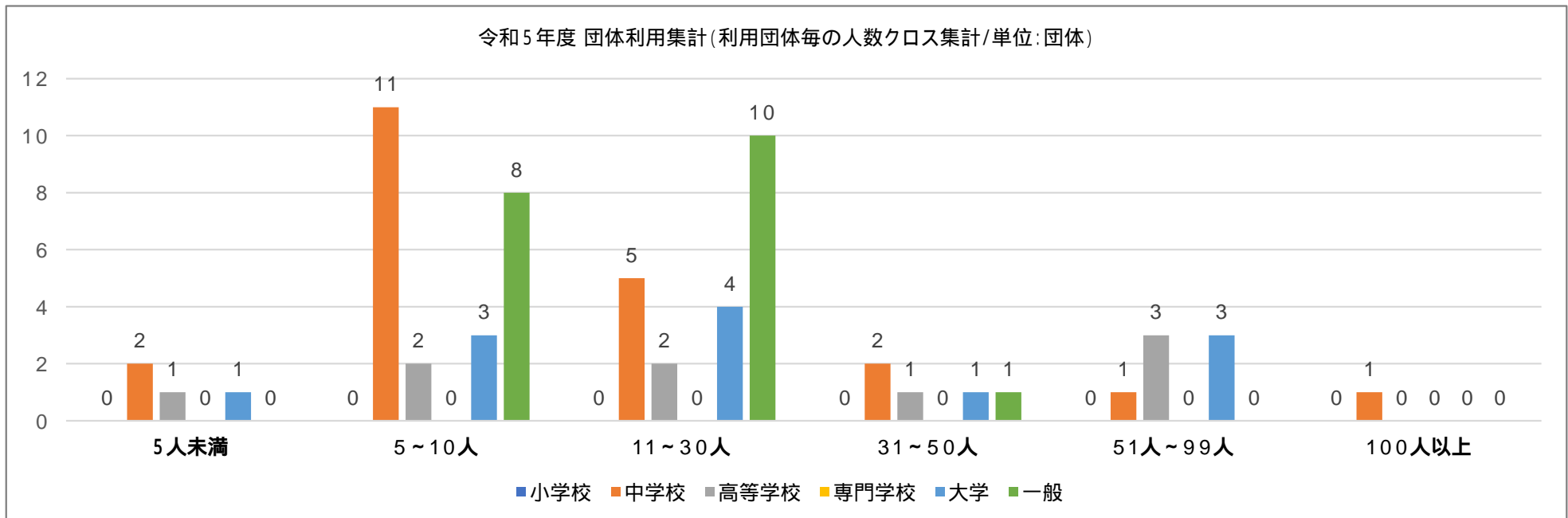
- 1 令和2年度はコロナ感染予防のため、全期間団体見学の受付を休止
- 2 令和3年度は4月～9月末まで団体見学の受付を休止、10月より再開
- 3 令和5年度は、7月31日～10月末まで 移転休館のため団体見学受付休止



(4) 令和5年度 団体利用集計(利用団体毎の人数クロス集計)

令和5年1月末日(単位:団体)

	小学校	中学校	高等学校	専門学校	大学	一般	合計
5人未満	0	2	1	0	1	0	4
5～10人	0	11	2	0	3	8	24
11～30人	0	5	2	0	4	10	21
31～50人	0	2	1	0	1	1	5
51～99人	0	1	3	0	3	0	7
100人以上	0	1	0	0	0	0	1
	0	22	9	0	12	19	62団体



## (1) 企画展の実施

## 企画展「戦傷病者を支えた女性たち 従軍看護婦と戦傷病者の妻」

会 期： 令和5年3月14日(火)～7月30日(日)

内 容： 移転に伴う業務を推進するため、これまでの企画展の中から、女性の労苦をテーマにした企画展「戦時中に寄り添った看護婦」と「戦後に結婚して労苦をともにした妻とのあゆみ」を再構成して開催しました。

事業計画では6月25日(日)まで開催の予定でしたが、閉館の7月30日(日)まで延長いたしました。



## (1) 企画展の実施

## 特別企画展 「武良茂(水木しげる)の人生」

会 期： 令和5年10月25日(水)～令和6年3月3日(日)

内 容： しょうけい館ではこれまで継続的に水木しげるさんの戦争体験とその労苦を紹介する企画展を実施してきましたが、今回の移転に合わせ、新たな資料も加えて再構成し、展示開催しました。

協 力： 株式会社水木プロダクション



(1) 企画展の実施

春の企画展 「義手と仕事 ～戦争で手を失った戦傷病者～」

会 期： 令和6年3月5日(水)～令和6年6月2日(日)

内 容： 義手を使用していた戦傷病者の労苦を、仕事面に焦点をあて展示します。義手を自分の手として使い慣れるまで、血のにじむような努力を続けた戦傷病者の方の、義手で仕事をするまでの苦労の道りをそれぞれの仕事・証言や手記を通して見つめます。

協 力： 川村義肢株式会社

チラシデザイン



(2) 3館連携企画

3館連携企画展(3館合同巡回展 戦傷病者の労苦を伝える 宮城展)

主 催： しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館  
 会 期： 令和5年12月9日(土)～12月19日(火) 午前10時～午後6時( 初日は9時30分からオープニングセレモニーを開催)  
 会 場： せんだいメディアテーク 5階ギャラリー3300(宮城県仙台市青葉区春日町2-1)  
 後 援： 宮城県 宮城県教育委員会 仙台市 仙台市教育委員会 河北新報社 朝日新聞社仙台総局 共同通信社仙台支社 時事通信社仙台支社  
 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 産経新聞仙台支局 NHK仙台放送局 tbc東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ khb東日本放送  
 エフエム仙台  
 協 力： 一般財団法人宮城県連合遺族会および一般財団法人日本遺族会第1ブロック  
 内 容： 新施設に移転したこともあり、施設紹介をするため、常設展示の流れに沿って、代表的な資料と共に展示しました。  
 また併せて、しょうけい館が戦傷病者の戦中戦後の労苦を伝える取り組みとして、近年実施した企画展を再構成して展示しました。

配布リーフレット



(2) 3館連携企画

3館連携企画展(3館合同巡回展 戦傷病者の労苦を伝える 宮城展)

展示会場



(2) 3館連携企画

夏休み3館めぐりスタンプラリー

- 主催： しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館  
 会期： 令和4年7月16日(土)から9月4日(日) 3館にてスタンプ台紙を配布  
 内容： 令和5年度は、しょうけい館が移転閉館のため、オリジナルグッズを提供しました。  
 参考： 各館オリジナルグッズ  
         ・しょうけい館……………オリジナル救急絆創膏セット(Mサイズ4枚入)  
         ・昭和館……………半藤一利画 オリジナルエコバッグ  
         ・平和祈念展示資料館……オリジナルノート(氷海のクロ)  
 集計： スタンプ台紙配布枚数/ 5,135枚 (前々年度4,883枚)  
         3館スタンプ完了オリジナルグッズ配布数: 510組 (前々年度555組)

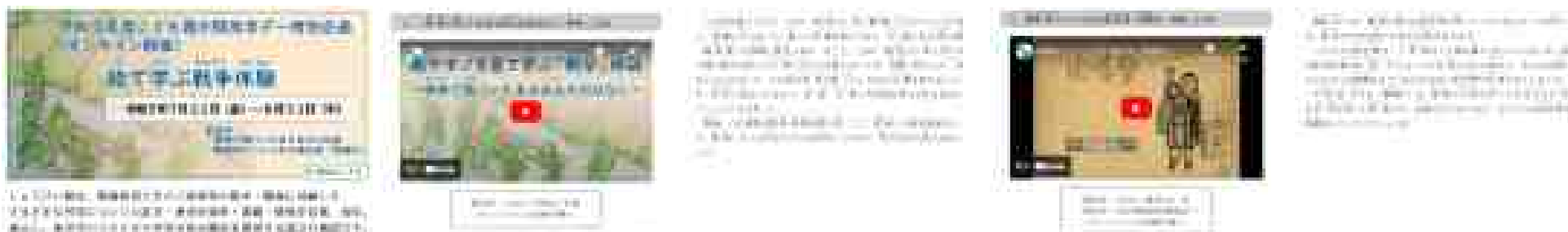


オリジナル救急絆創膏セット

こども霞が関見学デー

令和5年度の「こども霞が関見学デー」は、移転休館中もあり、2本の動画配信のオンラインプログラムにより参加しました。

- 期間： 令和5年7月21日(金)～8月31日(木)  
 内容： **戦争で傷ついたある兵士のおはなし(時間:22分)**  
         海南島の部隊で、手りゅう弾の破片で左腕を負傷し生涯苦労した過酷な戦争体験について、描き残した多くの絵をもとに紹介しました。  
         **戦時中につくられた紙芝居「雪晴れ」(時間:17分)**  
         戦時中、軍隊に関する紙芝居が描かれており、戦争で片足を失った元兵士と少年の交流を描いた物語を紹介しました。  
 視聴数： 115アカウント(YouTubeカウンター計測)





## (3) 上映会の開催

<p><b>企画展 関連 上映プログラム</b></p> <p>旧施設の企画展「戦傷病者を支えた女性たち 従軍看護婦と戦傷病者の妻」に合わせて、閉館まで上映しました。</p> <p>期 間： 令和5年3月14日～7月30日</p>	<p>陸軍看護婦に志願して かけがえのないはらから(同胞)とともに 南方の戦火をくぐった救護看護婦 二人で一人、傷痕軍人の妻として 努力家の夫を信じて～失明の夫とともに～ 失明の夫を支えて 看護ひとすじ～フィリピンで終戦を迎えた救護看護婦～ 小学校を出て先生に 気配りが生んだ「転ばぬ先の杖」</p>
<p><b>開館記念上映プログラム-1</b></p> <p>新施設の開館より、常設展示されている資料に関連した戦傷病者の証言映像を上映しました。</p> <p>期 間： 令和5年10月25日～12月27日</p>	<p>生きる…それは死ぬよりつらかった 人生を変えた一発の銃弾 平和の光を見つめて 感謝の心、妻にしたためて</p>
<p><b>平和祈念展示資料館 九段ギャラリー特別展 連携プログラム</b></p> <p>平和祈念展示資料館の九段ギャラリー特別展に連携した証言映像を上映しました。</p> <p>期 間： 令和6年2月7日(水)～2月13日(火)</p>	<p>何としても生きて帰る～極寒と酷暑の地で～ 人生を切り開いた知恵～シベリアで片腕を失う～ 全てはシベリアから始まった</p>
<p><b>開館記念上映プログラム-2</b></p> <p>新施設の開館より、常設展示されている資料に関連する方々の証言映像を上映しました。</p> <p>期 間： 令和6年1月5日(金)～3月3日(日)</p>	<p>四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～ 耐えて得た人生 想いを絵筆に込めて</p>

(4) 貸出キット

令和5年度は、1件の貸出しを行いました。

また、移転に伴い情報を更新し、パネルを再構成しリニューアルいたしました。

30枚セットを基本にしながら、15枚でダイジェストとして展開できるようにしました。今後は、運用の幅を広げ、チラシ等の広報活動も順次開始します。

貸出しパネル（網掛けのパネルは15枚ダイジェスト仕様）				貸出し用 実物		
戦地へ向けて	徴兵-1	戦場での受難、治療	受傷-1	搬送、戦時下の療養生活	生活の困窮-1	義手(展示用)
	徴兵-2		受傷-2		生活の困窮-2	
	入営-1		受傷-3		傷病とともに生きる-1	
	入営-2		受傷-4		傷病とともに生きる-2	
	出征-1		救護・収容-1		傷病とともに生きる-3	
	出征-2		救護・収容-2		ともにのりこえて-1	
	戦地での生活-1		野戦病院-1		ともにのりこえて-2	
	戦地での生活-2		野戦病院-2		ともにのりこえて-3	

貸出しパネル(抜粋)



## (1) 新規証言映像の収録

令和5年度は、新規収録は行わず、既存映像の整理と、来年度の収録に向けて調査を行いました。

## (2) 実物資料の収集

寄贈では、戦傷病者本人に関する資料(軍人傷痕記章や日記など)や軍医軍装なども受け入れました。

購入では、戦傷病者の軍人傷痕記章や患者の冬衣服・赤十字標識、また北猿田野戦病院開設要図などを入手しました。

令和4年度末までの登録数(内、平成24年度まで 10,853点)	31,909点
令和5年度の資料寄贈(令和6年1月末現在)	252点
令和5年度の資料購入(令和6年1月末現在)	29点
館所蔵資料総合計(令和6年1月末現在)	32,190点

令和5年8月1日より8月5日まで燻蒸を実施しました。

## (3) 図書資料の収集

寄贈では、郵便隊に関する資料や、戦傷病者について描かれた漫画などを受け入れました。

購入では、徴兵などに関する文献などを入手しました。

令和3年度末までの登録数(内、平成24年度まで 7,892点)	10,431点
令和5年度の図書寄贈(令和6年1月末現在)	21点
令和5年度の図書購入(令和6年1月末現在)	42点
館所蔵資料総合計(令和6年1月末現在)	10,494点

## (1) ホームページ・情報媒体利用

## ホームページ・SNS(Facebook/X)の活用

移転開館に合わせて、ホームページをリニューアルしました。これによりかねてから懸念があったスマートフォンやタブレット端末などの表示においても最適化された画面で情報を発信できるようになりました。

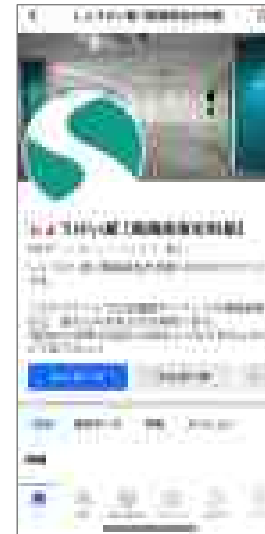
また、併せて、FacebookとXも開設したため、多様なメディアで情報をリンクすることが可能になりました。

なお、しょうけい館ホームページは、基本的にこれまで掲載した情報を引き継いでおり、新旧合わせて「館だより」を10回、企画展等その他のページ情報を18回更新したほか、企画展やこども霞が関見学デーなどで特設ページを開設し、情報発信に努めました。を設けるなど、コロナ禍で来館できない方々にも展示内容を知ってもらえるようにしました。

ホームページ



Facebook



X



## 情報媒体での発信

令和5年度は、「広報千代田」等の広報物、東京都博物館協議会等の刊行物、「千代田区観光協会」HP、「インターネットミュージアム」、「イベントバンク」等の情報サイトを活用し、移転による休館および開館に関する案内を中心に、地方展、企画展や定期上映会等について、それぞれの媒体に対して19回掲載し、新鮮な情報提供に努めました。

(2)メディア・掲載記事

TBS NEWS (10月25日 放送)

移転の開館式典の様子と、館内展示を紹介されました。



## (2)メディア・掲載記事

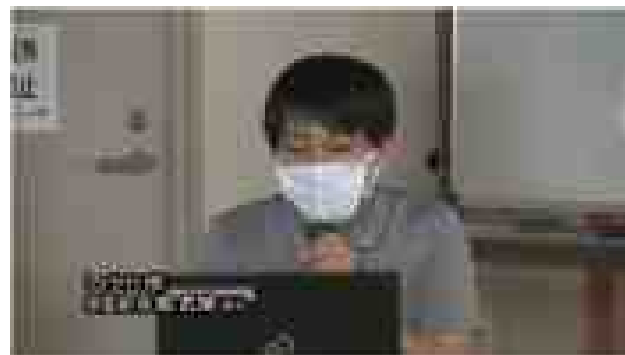
山形放送「でくのぼう～戦争とPTSD～」(5月28日 放送)

戦争とPTSDに関して、山形放送より取材を受けました。また館資料が紹介されました。(移転前)



福生市公民館\_ニュース平和講座 (8月20日 放送)

語り部派遣講話の様子をローカルニュースで紹介されました。



(2)メディア・掲載記事

様々なメディアでしょうけい館について取材があり、紹介されました。

Frau(フラウ)記事 平和資料館紹介 (8月号)

神奈川新聞 (8月10日 掲載)  
「戦後世代の語り部も戦傷病者の苦しみ伝える」



(2)メディア・掲載記事

昭和館・平和祈念展示資料館と共に、3館合同巡回展を開催し「戦中戦後の労苦を伝える 宮城展」も多くのメディアで紹介されました。

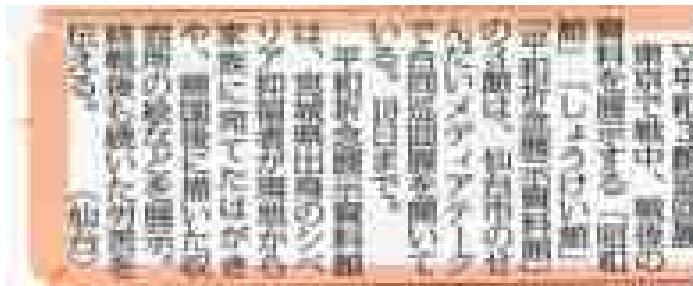
東日本放送（12月9日 放送）  
「戦中・戦後の苦難を次の世代へつなく」



東北放送（12月11日 放送）  
「写真や絵画が伝える戦争の実相」



毎日新聞（12月18日 掲載）



読売新聞（12月19日 掲載）  
「戦争の記憶 次世代に」



河北新報（12月11日 掲載）  
「暮らしが映す昭和・戦争」





第1期生～3期生の語り部講話活動について様々な活動支援や実施管理をしています。令和5年度は特に、移転休館中における、館外での講話活動(派遣講話)にも注力しました。

開館後は館内の活動においては、「団体見学者向け講話」を聴講者の希望も考慮しつつ調整を行い、また館内活動においては、様々な「館主催の講話会」を計画・実施し、活性化を図り、実施しています。

#### 館内活動(団体見学)

	日付	団体名	人数	備考
1	6月8日	二松学舎大学	23人	
2	7月6日	川崎市立塚越中学校	37人	
3	7月25日	横浜市立大学医学部 地域看護学教室	7人	
4	12月6日	東急バス労働組合	17人	
5	12月6日	防衛医科大学	74人	
6	12月7日	防衛医科大学	79人	
7	1月11日	大妻女子大学	8人	
8	1月25日	東村山第三中学校	22人	

## 館内活動(館内講話会)

	日付	団体名	人数	備考
1	11月4日	開館記念 語り部講話会	19人	
2	11月5日	開館記念 語り部講話会	9人	
3	11月18日	定期講話会	10人	
4	12月10日	定期講話会	30人	
5	12月24日	特別講話会	12人	
6	1月14日	特別講話会	11人	

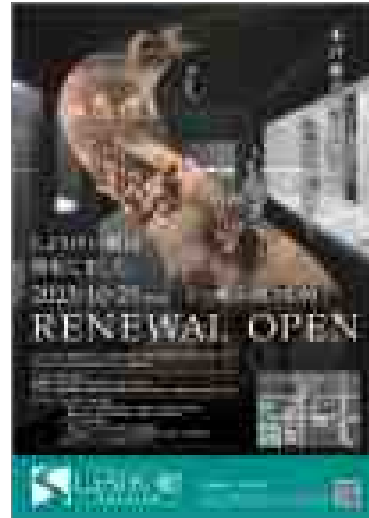
## 館外活動(派遣講話)

	日付	団体名	人数	所在
1	8月1日	荒川区社会福祉協議会	33人	荒川区
2	8月9日	南足柄市福祉課	16人	神奈川新聞 取材あり
3	8月11日	日本基督教団日本橋教会	17人	中央区
4	8月12日	港区立赤坂図書館	4人	港区
5	8月20日	福生市公民館	13人	語り部 取材あり
6	9月27日	東京都立国際高等学校	23人	目黒区
7	10月15日	戦争と家族 次世代の語り部講話会 (昭和館・しょうけい館・中国帰国者支援交流センター 3館合同)	77人	@昭和館
8	11月18日	公益財団法人 武蔵野文化生涯学習事業団	25人	武蔵野市
9	1月24日	和洋九段女子高等学校	70人	

加入登録者数： 479人（令和6年1月現在） 友の会会員は旧日本傷痍軍人会会員と、同妻の会会員とご家族

**友の会通信**

令和5年度は、移転後の開館案内などを発信いたしました。



ポスター



パンフレット

**「友の会通信」から「しょうけい館通信」へ**

友の会会員は、ご家族が大半となっており、戦傷病者ご本人と奥様は、年々減少傾向にあります。

これまで会員専用の情報誌として発行してきた「友の会通信」ですが、移転を機に一般広報誌への転換を図り、会員だけでなく、公共機関や関係機関などへも配信し、戦傷病者の労苦について伝えてまいります。

（令和6年3月から発行予定）



表紙

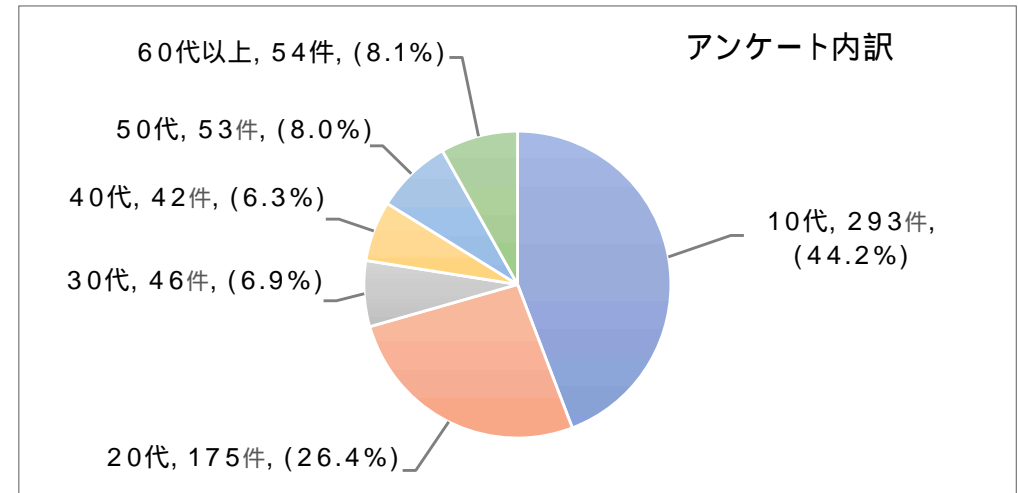


記事抜粋

令和5年度は、663件の回答が寄せられました。

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
比率	44.2%	26.4%	6.9%	6.3%	8.0%	8.1%
件数	293	175	46	42	53	54

- ・ 令和6年1月末までの集計
- ・ 令和5年7月30日～10月24日まで移転休館



### 感想・意見(集計記録より抜粋)

#### 【10代】

しょうけい館には、証言映像シアターや戦争中に使っていた義手や義足、義眼などたくさんの物がありました。その中で、私が1番心に残ったのは証言映像シアターです。実際に戦争中に生きていた人たちから直接お話を聞けたからです。戦争中に生きていた人から話を聞いたことがなかったので良い経験になりました。

実際に使われていたメガネや義足などを見て、戦争の残酷さを改めて思い知らされました。戦争の記録や、出兵した人の奥さんのお話などを聞いて、どんなに辛い思いをしても、ひたむきに生きようとする姿に、とても感動しました。特に記憶に残ったのは、「生きるのは、死ぬより辛い」という言葉で戦争って残酷だと思いました。

実際に使われていた物を見る事ができ、どれも衝撃的な内容や物ばかりでとても理解が深まりました。特に衝撃的だったのは、ジオラマの所です。ジオラマがリアルすぎて、目の前で、麻酔なしの手術が行われているように感じて、とても心が痛くなりました。また、当時の映像で若い男の人達が真剣に訓練しているのを見て、「この人達は、無事に生きて帰れるかな。」と、とても悲しい気持ちで見えていました。戦争の事をもっと若い世代に伝えていかなければならないと思いました。感じた。もっと当たり前の日常に感謝したいと思った。

## 【10代】

実物や証言、その時代の写真が展示されていたことにより、戦争が実際におきていて、様々な労苦があったことを実感した。衝撃的な内容も多く、少し見ていてしんどい部分もあったが、こうした時代があったから今の自分があるということを思い知った。看護師の人数を増やすために若いうちから勉強し、働く女性がいたということや、人手が足りないから働かされる子どもがいたという事実も忘れてはいけないことだと思う。私の曾祖父も戦傷病者で、2発うたれ、帰らぬ人になり得たが、呉の病院で診てもらい一命をとりとめたと聞いた。医師、看護師などのおかげで、私の曾祖父が生き、私が今生きているということを胸に刻んで、忘れないと心に誓った。

今回初めて戦傷病者にフォーカスされた展示や資料を見て、自分の知らない別の戦争を見ているような気分になった。戦争を経験していない私たちにとっては、戦争の終わりは歴史で習った通りであると思っていたけれど、戦争は国が終わりだと決めたから終わった訳ではないと感じた。戦争が終わった後の生活が、すっかり元に戻ったとしても、誰かは戦争の傷を一生背負って行かなければならず、戦争は瞬間や過去だけではなく、未来のすべてまでも奪ってしまうものなのだと思います。今まで何も不自由なく暮らしてきた自分に腹が立つような感情を抱いた。改めて、戦争は何も生まないどころか、様々なものを奪い、二度と修復させることを許さない、本当に恐ろしく、罪なものであると思った。同時に今の自分は戦争を知らないからこそ知識を深める必要があると思うし、目を背けたくなるような事実であるからこそ、目を背けずに、全員で向き合っていかなければいけない問題であると思った。

## 【20代】

戦争について考える事、単に国同士が戦っているという視点から見のではなく、一人一人の私たちと同じように毎日の暮らしを営んでいた人が戦地に送られて戦っていたということを忘れてはいけないと改めて感じました。戦地での辛い出来事の数々はきっと私が今日展示を見て受け取ったものよりも、もっと過酷なものだったと思います。展示を見ていると苦しくなって、直視しづらくなってしまいう瞬間もありましたが、だからこそ戦争が一体どういうものなのか、当たり前な日常をどんなに変えてしまうのか、次の世代に引き継いでいく必要があるのだと思います。戦傷病者の経験を知る中で戦争が終わったから、戦地から帰って来たといっってその苦労は終わらないのだと言うことをひしひしと感じました。戦争というものは、その最中はもちろんのこと、その後も長きに渡って社会全体に影を落とすものだと感じました。実際に経験した方とお話しする機会も減ってきてしまっていますが、それでも過去を学ぶ事でこれからの時代を少しでも良くして行けたらよいなと思います。

戦争について今の私たちにとって、過去のような感じがそうではないと改めて感じました。今は平和だけれど、平和であるのは「戦争は絶対にだめ」と強く伝え続けてくださった方々のおかげです。終戦後も深い傷が残っている方々、戦傷病者、その方々を支えた人々。色んな想いがつまっている資料や証言を知ることで自分自身としても、戦争があったことを忘れず、これからの日々感謝の気持ちをもっていきます。

今までは戦争を経験した兵士の方々の証言だったり、沖縄のひめゆりの塔では戦時中の看護についてだったり、なかなか、「戦後」彼ら、彼女らはどうなっていったのかを知る事が出来なかったが、学べて良かった。

我は大伯父をビルマで亡くしているが、展示のような体験をしているのかと思うと心が痛かった。今も紛争は無くなっていないが、このような歴史を広く知らせるためになくってはならない所であると思う。

## 【30代】

大変勉強になりました。口伝や、編集されたTV番組だけでは伝わらない、実物やリアルな再現展示は、直に五感にうったえかけてくるので、イメージがしやすかったです。

戦争について、平和について、考える機会を頂くとともに、これらを学ばせていただく身として、今後何ができるのか、自分たちの使命について考えさせられました。

ジオラマがあり、イメージしやすく勉強になりました。理解(知識として)はしていたけど、証言を見ると、現在とちがって様々な差別があったので、戦争に赴かなければならなかった人、妻として、看護師として、支えたことの苦労をすごく感じました。

## 【40代】

平和の大切さを改めて痛感しました。また、苦難から立ち上がり支えあいながら生きた人の、強さしなやかさに感銘を受けました。

語り部は語り口がゆっくりで丁寧で聞きやすかったです。難しいテーマを映像を使って補っているところは良い解決策だと思いました。うまく構成されていたと思います。また、音響を用いて聞き手の想像力をかき立てられるところも良かったです。

## 【50代】

今、身近にある当たり前の幸せが、いかに尊いか感じています。語り部が、どんどん無くなり戦争の悲惨さが、風化しないよう今後も平和でありますように心から祈っています。

戦争に関する情報には繰り返し、様々な経路から入手するのを感じます。そうでないと記憶の中で印象が硬化し、生々しさを失うように思います。これからも様々な展示に接していきたいです。

戦争のため傷つき、大変な苦労をされた方と、それを支えた配偶者の方の苦難の人生を知ることができて、よい時間をすごせました。洞窟を利用した野戦病院のジオラマがホラーでしたが、これ位のリアルさがないと、当時の状況が伝わってこないと思うのでよいと思います。企画展示が変わる度に訪れたいと思います。図書コーナーも充実していてまた来たいです。

今の平和な世の中に改めて感謝しました。戦争は、二度とあってはならないことだと強く感じました。

## 【60代以上】

いつもすばらしい企画ありがとうございます。毎回楽しみにしています。他の博物館との連携企画も期待しています。

義母から従軍看護婦の話をよく聞いていた。終戦後も大陸から帰れず、中国の内戦にまきこまれ中国軍のために働かされた。とても強く、優しい義母の事を思い出させてもらった。

初めて見学させていただきました。戦争という庶民にとっては悲惨な出来事が生活のすぐ脇にある時代を先祖が乗り越えて、今の日本が築かれた事を忘れてはならないと改めて思いました。

戦争の悲惨さについて改めて考えさせられた。当時使われていた物や、実際に戦地に向かわれた人たちの話を讀んだりして、とてもリアルに感じる事ができた。特にジオラマは心が痛む思いでいっぱいになった。もし自分の家族がこんな状況になったらと思うと、本当に心苦しくなったし、これからはこんな戦争が起きてほしくないと感じた。

特に子供達にはこんな目に合わせたくないと思ったし、平和の尊さを感じた。もっと当たり前の日常に感謝したいと思った。